

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | チェック項目 | 改善目標や工夫している点 |
|---------|---|--|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ガイドラインにて推奨される、児童発達支援事業に必要な2～3倍の床面積がある。状況に応じてエリア分け等で、適切なスペースを確保している。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 児童指導員を加配しており、基本的に指導員3名体制で運営している。また同時に利用する人数から見ても、適切な人数であると考えられる。 |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | 建物入り口から事業所まで段差は無く、事務所内も開放的な形に加えて、開き戸には指詰めカバーを付けたりイラスト付きの案内を各部屋に貼り、視覚的に分かりやすくする等、バリアフリー化や環境に配慮している。 |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | サービス提供後には必ず清掃、消毒を実施している。指導訓練室には怪我防止の為、角を保護したりする等、運動療育に適した空間にしている。 |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 職員全員で支援終了後にミーティングを行い、情報共有と記録を作成し、個別支援計画を基に課題に対する支援を実施、振り返りを行っている。 |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 毎年保護者に対しアンケートへの協力を依頼し、ご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。 |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 事業所として自己評価を行いHPにて公開していく。 |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 現在は実施していない。 |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 社内研修を行い、職員の資質向上を図っている。 |

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|----------|----|--|--|
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | 保護者と直接面談を行い課題やニーズを把握し、職員間で支援計画についてのミーティングを実施した後に、支援計画を作成している。 |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | アセスメントシートを用いて適応行動の状況を把握している。また日々の記録を個別に作成し、都度確認できるようにしている。 |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | ・運動療育を主に提供している為、発達支援が中心の支援計画になっているが、保護者との面談やフィードバック時などに聞き取りを行い、子供の支援に必要な項目を適切に選択している。 ・また児童発達支援ガイドラインにもあるように利用児童本人のニーズも適切に把握できるように支援を行っている。 |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | 支援目標、支援内容などを常に確認できる状態でサービス提供前後のミーティングを行い、児童発達支援計画に沿った支援を心がけている。 |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 職員間でミーティングを行い、活動プログラムを組み、実施している。 |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 複数の指導員が原案を作成し、ミーティングで以前の内容確認も行き実施する内容を決めている。 |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している | 基本的には集団活動を行っているが、保護者と面談を行い、必要・希望に応じて個別活動を取り入れている。 |
| | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 支援開始前には毎日ミーティングを行い、支援の内容や役割分担について確認している。 |
| | 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。 |

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|--------------|----|---|---|
| | 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 利用児童ごとにサービス提供記録と日報に支援内容、課題、気付いた事、特記事項を記録し、支援の検証・改善も図っている。 |
| | 20 | 定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | 最低でも半年ごとに保護者と面談、及び職員間で支援計画ミーティングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断し、更新している。 |
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 開所より現在まで利用児童についてサービス担当者会議が行われた事は無いが、行われる場合は基本的に児発管が参加する予定。 |
| | 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | 周辺の機関と直接連携してはいないが、利用者が関係している機関には直接、もしくは電話で挨拶する等、いつでも連携できる状態を心がけている。 |
| | 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | 当事業所には医療的ケアが必要な児童は在籍していない。今後必要があれば連携して支援していく。 |
| | 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | 当事業所には医療的ケアが必要な児童は在籍していない。今後必要があれば連携して支援していく。 |
| | 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 現在、こども園等と支援内容等の情報共有は行っていない。必要に応じて検討していく。 |
| | 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | 現在、小学校、支援学校等と支援内容等の情報共有は行っていない。必要に応じて検討していく。 |
| | 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 広く連携している訳ではないが、利用者の利用している他事業所とは連絡を取り、情報共有する事もある。 |
| | 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある | 行っていない。支援の内容、時間を考慮すると交流が難しい事が予想されるが、希望・必要に応じて検討していく。 |

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|------------|--|--|---|
| 保護者への説明責任等 | 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | 参加していない。今後前向きに検討していく。 |
| | 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 支援終了時に毎回指導員が支援内容や目的、児童の状態等を直接話し、保護者からの意見やニーズも受け止め、共通理解を持てるようにしている。 |
| | 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者から相談等があった場合は適切に対応している。 |
| | 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 契約時に説明しており、質問があった時には直ぐに正確な情報が伝えられるようにしている。 |
| | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | 適切な手順を踏んだうえでガイドラインに沿った内容の支援計画を作成し、保護者に直接説明を行い、同意を頂いている。 |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 面談は定期的実施しており、その他にも利用後のフィードバック時に相談があった場合はその都度回答し、職員間で共有、記録している。1人の判断で回答できないものはミーティングを経て回答している。 |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 現状は保護者同士の連携を支援していない。希望があれば検討していく。 |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | 苦情・相談等についてはマニュアルに沿って適切に対応していく予定。対応の体制は整備しており、契約時に説明もしている。 |
| 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 希望のある方には毎月活動の様子を写真等で送付している。また行事予定等も適宜発信している。 | |
| 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | 個人情報が含まれるものはファイリング後に書庫保管を基本とし、廃棄する場合はシュレッダーにかけて廃棄している。 | |

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|---------|----|--|---|
| | 39 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 利用児童に合わせて伝達のタイミングや方法に配慮している。保護者に対しては、文書と口頭で伝える等を行っている。 |
| | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 特に行っていない。 |
| 非常時等の対応 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | 左記マニュアルと同様のマニュアルは策定しており、研修を通じて職員に周知しているが、保護者には周知していない。保護者への周知方法を検討していく。 |
| | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 定期的に避難訓練を実施している。 |
| | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | 利用開始前に面談にて聞き取りを行い、職員間で共有している。 |
| | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 食物アレルギーについては面談時に聞き取り、職員間で共有しているが、食事を提供することが無い為、指示書等は管理していない。 |
| | 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 事例が起きるごとに作成し、職員内で共有している。また今後の対応などをミーティングし改善を図っている。 |
| | 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 定期的に虐待防止委員会、研修を行い、虐待防止に努めている。 |
| | 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | 緊急時である場合などを考えると、現場の指導員に最低限の裁量がある事は否定できないが、組織的に適用条件・適用後の対応などを決定し、保護者には契約時に丁寧に説明し同意を頂いている。また児童発達支援計画にも記載している。 |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者からの事児童発達支援業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 堺教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

| | | チェック項目 | A | B | C | D | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 | |
|----------|---|---|----|---|---|---|---|--|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 10 | | | | 広くて楽しそうに走り回ったように思う。 | 今後もスペースが十分確保できるよう、エリア分け等の工夫をしながら支援していきます。 | |
| | 2 | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 10 | | | | ・注視が一般よりも必要で、個々に応じた対応も必要な分、大人が沢山いるので多く見てくれているのが有難い。 ・手厚く対応してくださってます。 | 今後も配置数、専門性等、適切な環境を整えていきます。 | |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか | 10 | | | | 言葉のみの理解が低い分、目で分かり易いよう工夫されていると感じる。 | 今後も適切な配慮を心がけていきます。 | |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか | 10 | | | | 土足とそれ以外で場所を変えているのが、教える事にも繋がっていると思う。 | 毎日の清掃・消毒はもちろんの事、安心して過ごせるような環境づくりを心がけていきます。 | |
| 適切な支援の提供 | 5 | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか | 10 | | | | 出来ることに合わせてくれている。出来るようになるアプローチも専門家ならではの視点で丁寧にしてくれているので、向上していることが分かる。 | 今後もより良い支援計画を立てられるように努力していきます。 | |
| | 6 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか | 10 | | | | | | |
| | 7 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか | 9 | | | | 1 | 毎回、個人に合わせて楽しく取り組む工夫がなされていると思う。 | 複数人クールの場合、完全には難しいですが、出来る限りお子様の課題等に沿って支援していきます。 |
| | 8 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか | 9 | | | | 1 | 本人が楽しそう。 | ルーティーン化しているもの以外は固定化しないように心がけております。 |

保護者からの事児童発達支援業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 堺教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

| | | | | | | | | |
|----------|----|---|----|---|---|---|---|---|
| 保護者への説明等 | 9 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 1 | 1 | 1 | 7 | TAKUMI内であるかどうかは知らない。 | 現在においてそのような機会は設けておらず、利用時間を考えると簡単ではないが、希望があれば検討していきます。 |
| | 10 | 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 10 | | | | 申請等がよく分かってなかったので、説明して頂けたので上手く利用できたと思う。 | 契約時にご説明させて頂いており、それ以外にも質問があれば迅速かつ丁寧に対応していきます。 |
| | 11 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか | 10 | | | | | |
| | 12 | 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか | 2 | | 3 | 5 | 別の施設で、接し方を聞くことが多いが、今後はうかがうことが増えると思う。 | ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者様から相談等があった場合は丁寧に対応していきます。 |
| | 13 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか | 10 | | | | 時間があれば話をさせて頂き、心にゆとりをもって認識できる機会を頂いている。 | 今後も継続して共通理解ができるように努めてまいります。 |
| | 14 | 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 6 | 2 | | 2 | まだ日が浅いのでその機会が来ていない。 | 定期的に面談等はさせて頂きますし、希望があれば迅速に対応致します。 |
| | 15 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 1 | 1 | 4 | 4 | ・保護者同士は特に交流は無いが、今は特に不満はない。 ・他の保護者と話したり交流があるとお友達を作るきっかけがつかれるかもしれない。 ・コロナ禍なので仕方ないと思う。 | 時間やスペースを考慮すると営業時間内に行うのは簡単ではないが、希望が多くあれば検討していきます。 |
| | 16 | 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか | 8 | | | 2 | LINEで気軽に連絡が見られるのが便利。 | 直接のご意見はもちろんですが、電話やLINEでの相談、申し入れについても迅速に対応できる体制を整えていきます。 |
| | 17 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 10 | | | | 活動中の写真がうれしい。 | 毎日のフィードバック時にお話はさせて頂いており、お子様との意思疎通や情報伝達に関しても、研修等で職員のスキル向上を図っていきます。 |

保護者からの事児童発達支援業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 堺教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

| | | | | | | | | |
|---------|----|--|----|---|--|---|--|---|
| | 18 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか | 2 | 2 | | 6 | HPを見ていないので知らない。 | HPにて自己評価結果を公表予定となっており、普段の様子等は希望の方には写真や動画を送らせて頂いております。 |
| | 19 | 個人情報の取り扱いに十分注意されているか | 10 | | | | 他の子に誰がいるか全く知らないのでは出来ていると思う。 | 個人情報が含まれるものはファイリング後に書庫保管を基本とし、廃棄する場合はシュレッダーにかけて廃棄しています。 |
| 非常時等の対応 | 20 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。 | 7 | | | 3 | 海が近いこともあり、津波の時の避難場所が難しいように思うが、知らされているので安心して任せられる。 | ・名称は違いますが、左記マニュアルと同様のマニュアルは策定しており、今後周知方法を検討していきます。 ・避難場所に関しては契約時にお伝えさせて頂き、書面にてお渡ししております。 |
| | 21 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 5 | | | 5 | | 年2回避難訓練を実施しており、災害対策用品や防災バック等を準備しております。 |
| 満足度 | 22 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 10 | | | | ・足取り軽く向かい、笑顔で戻ってくる。 ・常に肯定的な言葉掛けで気持ちを盛り上げて下さり、苦手だったものも楽しんで取り組んでいます。 ・運動嫌いの子どもが楽しんで通っています。 | 今後も楽しみにして頂ける様に支援していきます。 |
| | 23 | 事業所の支援に満足しているか | 10 | | | | ・日常でなかなか寝る機会が少ないので、本人にとっても沢山ほめてもらえるのが良い。 ・送迎があればうれしい。 ・毎日ほめてモチベーションを高めて下さり、親子で気持ちよく通っています。 | 送迎に関しては現在において行う予定はございませんが、ご意見・ご要望は真摯に受け止め、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていきます。 |

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | チェック項目 | 改善目標や工夫している点 |
|-----------------|----|--|--|
| 環境・ 体制 整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ガイドラインにて推奨される床面積の約2~3倍の床面積がある。状況に応じてエリア分け等で、適切なスペースを確保している。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 児童指導員を加配しており、基本的に指導員3名体制で運営している。また同時に利用する人数から見ても、適切な人数であると考ええる。 |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 建物入り口から事業所まで段差は無く、事務所内も開放的な形に加えて、開き戸には指詰めカバーを付けたりイラスト付きの案内を各部屋に貼り、視覚的に分かりやすくする等、バリアフリー化や環境に配慮している。 |
| 業務 改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 職員全員で支援終了後にミーティングを行い、情報共有と記録を作成し、個別支援計画を基に課題に対する支援を実施、振り返りを行っている。 |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 毎年保護者に対しアンケートへの協力を依頼し、ご意見を真摯に受け止めると共に、可能な範囲で最大限の業務改善を図っていく。 |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 事業所として自己評価を行いHPにて公開していく。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 現在は実施していない。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 社内研修を行い、職員の資質向上を図っている。今後も継続し、外部の研修に関しても参加を検討していく。 |
| | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 保護者と直接面談を行い課題やニーズを把握し、職員間で支援計画についてのミーティングを実施した後に支援計画を作成している。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | アセスメントシートを用いて適応行動の状況を把握している。また日々の記録を個別に作成し都度確認できるようにしている。 |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|----------|----|---|--|
| 適切な支援の提供 | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 職員間でミーティングを行い、活動プログラムを組み、実施している。 |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 複数の指導員が原案を作成し、ミーティングで以前の内容確認も行き、実施する内容を決めている。 |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 基本的には平日・休日・長期休暇で利用時間や曜日等が変わることは少ない為、細かに課題を変更・設定などは行っていない。長期休暇後などは児童の精神的なケアが必要な場合もあるので、適切に対応していく。 |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 基本的には集団活動を行っているが、保護者と面談を行い、必要・希望に応じて個別活動を取り入れている。 |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。 |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 支援開始前には毎日ミーティングを行い、その日行われた支援を振り返り、気付いた点などを共有・記録している。 |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 利用児童ごとにサービス提供記録と日報に支援内容、課題、気付いた事、特記事項を記録し、支援の検証・改善も図っている。 |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 最低でも半年ごとに保護者と面談、及び職員間で支援計画ミーティングを行い、支援計画の見直しの必要性を判断し、更新している。 |
| | 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている | 総則の基本活動の内、主には「自立支援と日常生活の充実のための活動」及び「余暇の提供」を組み合わせ提供している。 |
| | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 開所より現在まで利用児童についてサービス担当者会議が行われた事は無いが、行われる場合は基本的に児発管が参加する予定。 |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|--------------|----|---|--|
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている | 送迎を行っていない為、学校との情報共有はほとんど行っていないが、保護者を介して学校の情報は頂いており、必要に応じて学校に対して個別に連絡等は行っている。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 喀痰吸引等の医療的ケアが必要な児童は利用していないが、必要に応じて連絡体制を整えていく。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 現在において事業所との情報共有は行っていないが、保護者を介して情報を頂いたり、報告している。必要に応じて直接の情報共有を検討していく。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 現在まで該当の児童が在籍していないが、今後対象の児童が居る場合は対応できるようにしていく。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 連携等は出来てないため、状況に応じて研修等への参加を検討していく。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | 特に設けてはいない。今後希望に応じて検討していく。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 参加していない。今後は前向きに検討していく。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 支援終了時に毎回指導員が支援内容や目的、児童の状態等を直接話し、保護者からの意見やニーズも受け止め、共通理解を持てるようにしている。 |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | ペアレント・トレーニングとしては実施していないが、保護者から相談等があった場合は適切に対応している。 |
| | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 契約時に説明しており、質問があった時には直ぐに正確な情報が伝えられるようにしている。 |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|------------|----|--|---|
| 保護者への説明責任等 | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 面談は定期的実施しており、その他にも利用後のフィードバック時に相談があった場合はその都度回答し、職員間で共有、記録している。1人の判断で回答できないものはミーティングを経て回答している。 |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 現状は保護者同士の連携を支援していない。希望があれば検討していく。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 苦情・相談等についてはマニュアルに沿って適切に対応していく予定。対応の体制は整備しており、契約時に説明もしている。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 希望のある方には毎月活動の様子を写真等で送付している。また行事予定等も適宜発信している。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 個人情報が含まれるものはファイリング後に書庫保管を基本とし、廃棄する場合はシュレッダーにかけて廃棄している。 |
| | 36 | 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 利用児童に合わせて伝達のタイミングや方法に配慮している。保護者に対しては、文書と口頭で伝える等を行っている。 |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 特に行っていない。 |
| 非常時 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 名称は違うが左記マニュアルと同様のマニュアルは策定しており、研修を通じて職員に周知しているが、保護者には周知出来ていない。保護者への周知方法を検討していく。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 定期的に避難訓練を実施している。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 定期的に虐待防止委員会、研修を行い、虐待防止に努めている。 |

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 TAKUMI 堺教室

| | | | |
|------------------|----|--|---|
| 等 の 対 応 | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 緊急時である場合などを考えると、現場の指導員に最低限の裁量がある事は否定できないが、組織的に適用条件・適用後の対応などを決定し、保護者には契約時に丁寧に説明し同意を頂いている。また児童発達支援計画にも記載している。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 食物アレルギーについては面談時に聞き取り、職員間で共有しているが、食事を提供することが無い為、指示書等は管理していない。 |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 事例が起きるごとに作成し、職員内で共有している。また今後の対応などをミーティングし改善を図っている。 |

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 堺教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

| | | チェック項目 | A | B | C | D | ご意見 | ご意見を踏まえた対応 |
|----------|----|--|---|---|---|---|-----------------------------|---|
| 環境・体制整備 | 1 | 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか | 5 | | | | ゆったりスペースで安心です。 | 今後もスペースが十分確保できるよう、エリア分け等の工夫をしながら支援していきます。 |
| | 2 | 職員の配置数や専門性は適切であるか | 5 | | | | | |
| | 3 | 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか | 4 | | | 1 | トイレ等細部は見てないが、活動の場所は配慮されている。 | 今後も適切な配慮を心がけていきます。 |
| 適切な支援の提供 | 4 | 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか | 5 | | | | | |
| | 5 | 活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか | 5 | | | | | |
| | 6 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか | 2 | | | 3 | 利用が浅く情報がない。 | 現在においてそのような機会は設けておらず、利用時間を考えると簡単ではないが、希望があれば検討していきます。 |
| 保護者 | 7 | 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか | 5 | | | | | |
| | 8 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか | 5 | | | | | |
| | 9 | 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか | 5 | | | | | |
| | 10 | 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか | 1 | | | 4 | 利用が浅く情報がない。 | 現在においてそのような機会は設けていないが、希望に応じて検討していきます。 |

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 堺教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

| | | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|---|---|---|
| への説明等 | 11 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか | 3 | | 2 | | 直接のご意見はもちろんですが、電話やLINEでの相談、申し入れについても迅速に対応できる体制を整えていきます。 |
| | 12 | 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか | 5 | | | | |
| | 13 | 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか | 4 | | 1 | | HPにて自己評価結果を公表予定となっており、普段の様子等は希望の方には写真や動画を送らせて頂いております。 |
| | 14 | 個人情報に十分注意しているか | 5 | | | | |
| 非常時等の対応 | 15 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか | 5 | | | | |
| | 16 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか | 2 | | 3 | 利用が浅く情報はない。 | 年2回避難訓練を実施しており、災害対策用品や防災バック等を準備しております。 |
| 満足度 | 17 | 子どもは通所を楽しみにしているか | 4 | 1 | | ・気分のムラがありますが、基本的には「行く！」となります。 ・毎回すごく楽しみにしています。 | 今後も楽しみにして頂ける様に支援していきます。 |
| | 18 | 事業所の支援に満足しているか | 5 | | | 気軽に連絡を取ることができ、安心してお願いしてきています。 | 今後も安心して頂ける様に支援していきます。 |

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。